



パワー

(電力・動力)

2012

春

株式会社 **ホンマ電機**

情報紙63号

発行所 株式会社 ホンマ電機
神奈川県相模原市南区上鶴間1丁目12-1
電話 042(746)1616(代)
ホームページ **ホンマ電機** 検索
発行責任者 本間俊三

電気事業の地域独占と供給義務

福島第一原発事故を踏まえ「電気事業の地域独占」が取沙汰されています。マスコミの非難的「地域独占」と、そのため課せられる「供給義務」について、その経緯と今後の方向性を考察しました。

東京電力は、1都8県の広域に渡り電力供給を行っています。日本では各電力会社が電力の生産から販売に至るまで一貫運営しその地域の顧客に供給。その歴史的な経緯を説明しましょう。

現在の10電力体制となりました。

この際「地域独占」と「供給義務」が法に定められました。海外の電力自由化の高まりを受け、日本でも96年に電力会社に電気を販売する卸発電事業が、2000年には大口顧客（工場やビル）に対する電力販売が自由化。以来大口顧客に対しては、電力が不足していない時だけの供給義務となったのです。工場の広大な敷地に大規模な自家発電設備をもつ鉄鋼・化学メーカーは、自由化を機に余剰電力を利用した発電事業に参入。自由化の対象は、工場やデパートまで

電気事業は地域独占から自由化へ

■地域独占と供給義務を定める
第2次世界大戦後の1951年、日本発送電が分割・民営化され9電力会社が誕生、発送電一体



拡大されましたが、新規参入は限定的に留まりました。電力会社は「電力を安定的に供給するには現行の供給体制維持が不可欠」と主張、地域独占見直しや発送電分離といった改革に反対してきました。こうした動きもあり、経産省の総合資源エネルギー調査会は2007年、一般家庭も含めた全面自由化については「家庭に電力を供給する新規参入事業者が見込めない」という理由で見送りました。原発事故を踏まえ、政府は太陽光発電などの再生可能エネルギーを強化していく方針ですが、発電

2012年 私の提言

代表取締役 本間俊三
正月からTVでは平清盛が放映され、三かなり人気があるようです。清盛が活躍した時代は人心乱れ、社会は混乱、それに乗じてお化けや鬼の話などが語られ、流布されたといわれています。物の本によれば東北に多い鬼伝説は、平安時代から大量の金が東北の各地で掘り出されており、金山に人を寄せ付けない方策として作られたとあります。なまはげなどで額かされます。今の時代に鬼伝説を信じ

知りたい明確な健康への被害

る人はいませんか？当時は信じられ、金を産出する山には立ち入らないそれなりの効果もあったと思われま

一方の火の玉ですが、これも亡霊と並んで大変に恐れられた現象の一つです。今では科学的に説明され、電氣的プラズマ現象として説明されていますので、昔のように怖がる人は少ないようです。こうした現象を説明するに至るまでには、何百年もの時を経てい

火の玉や亡霊に例えて不謹慎ではあります。これを低レベル放射能に置き換えてみては如何でしょうか。高レベル放射能が健康に被害を及ぼすことは疑問の余地がありません。しかし地球は誕生以来、放射能や宇宙線と共存し、今日、そのレベルは低下してもゼロではなく、あるレベルを維持し、人類も他の生き物もその環境で生きています。それは、大気中や人間の体内にも様々の有害な雑菌が生息しており、我々はその中で生きていくのに似ていると思えます。こうした環境下で最も知りたいことは、何程の量で如何なる被害を受けるのか、科学的根拠に基づく明確な数値と説明です。こうした情報も無く漠然と『将来が人になる恐れがある』といわれれば、昔の人たちが亡霊や火の玉を恐れたこと何ら変わりがないと思えるのです。

供給義務は自由化とともに考え方が安定供給へ変化しています。また需要家や消費者が購入する電力会社を選ぶ基準は、コストだけでなく安定供給能力も検討項目になるでしょう。将来は一般家庭でも、安定供給能力や好みを加味した電力会社を選んだり、ライフスタイルに合わせたコスト比較をしたりと、携帯電話の様に選択肢の幅が広がる時代が来るかもしれません。

新入社員紹介



佐藤 学 (48歳)
入社 平成24年1月23日
第2種電気工事士
福島県会津出身

■ポークスカウト餅つき会
弊社代表は32年前より、ポークスカウト活動の支援をやらせて頂いています。当初は長男がスカウトとしてお世話になっていたので、人的・経済的支援だったので、事務所と倉庫改築後から、備品の保管場所の提供や、会議場所などとしても協力できるよになりました。毎年楽しみにしている正月恒例の餅つき会に今年も招待され



ポークスカウトを支える大人たち



お餅のでき上がりを待っている



盛り上がる鱧鍋の会



59 近況報告

中心に、鱧鍋の会有志です。

このイメージマークは「サービスマーク」として登録されています。



BUSINESS
フィールド

中でした。病院からの相談に対し弊社は、インバータタイプの省エネエアコンによる個別空調方式を提案。病院という特殊性もあり、工期を約3カ月頂き、患者さま最優先の施工体制をとりましました。

万田安くなつたことで、

患者さん第一に、新しいエ

相模原南病院

効果上げた積極的な節電への投資

相模原南病院は相模原市大野台にあり、延べ床面積1万2700平方メートル、病床数471、職員数300名を誇る高齢者向け長期療養型病院です。

従来エアコンは、ビルマルタイプのエアコンで故障が多く、更新を検討

を記録、経理担当を驚かせました。東京電力もその理由を尋ねてきて事情を知り、納得したとのこと。

効果はてきめん 3月着工から順次運転、効果は翌月より確実に表れました。

理事長の感想 エアコンのトラブルや使い勝手の改善が当初の目的だったよう

コンと交換し、想像以上の電気代節約に繋がりと、とても満足な様子でした。

家庭での節電アイデアと効果を試算

効果上がる節電の継続



3月の震災以来、よく耳にする「電力使用率」という言葉を誤解している人が多いようです。

電力使用率95%なら残り5%を蓄えておけばよいと提案。名案だが電気には通用せず、この数字は供給能力(発電可能能力)に対する使用時の電力であり、発電量に対する消費量ではありません。

電気の特長から発電量と消費量は常に同じですから、電力使用率95%とは供給能力の95%を運転していることをいいます。100%

こので分かることは、消費電力の大きい機器(エアコン)ほど節電への影響が大きく、また長時間稼働する機器(冷蔵庫など)ほど消費電力に影響するということです。

その対策ごとの効果を経済産業省が試算したのでご紹介しましょう。

下記の表は全世帯の各機器の平均電力。夏の午後2時に1世帯1200ワットの電力を消費すると仮定。

機器	節電対策メニュー	節電効果(計算省略)	削減効果根拠、条件
照明 [65w]	日中は照明を減らす	約5%	65wの照明を消したとき
エアコン [695w]	① 設定温度を2度上げた時	約20%	1度上げると10%節約(財省エネルギーセンター)
	② 簾やヨシズなどで日差しを遮る	約10%	日差しの緩和
	③ エアコンを消す	約50%	消費電力ゼロとなる
冷蔵庫 [207w]	温度設定を「強」から「中」に、開扉を減らす	約2%	強から中で11%節約(財省エネルギーセンター)
テレビ [65w]	省エネモード、画面輝度下げ、必要以外消す	約2%	1/3は「ながら見」、省エネ輝度下げ10%
ジャー [25w]	一日分炊いて冷蔵庫へ	約2%	保温による消費電力ゼロ
温水便座 [7w]	保温・温水off、プラグ抜く	1%未満	消費電力ゼロ

を超える電圧、周波数が低下、さらには大停電へと波及します。供給能力も多くの発電機が連携運転した合計であり、絶対安定とはいえず、そのうち1台でもトラブルを起せば低下し、100%を切った先の様に大停電の恐れ、あるいは計画停電の実施となります。ですから常に数%の余裕が必要なのです。

企業ルポ

お客様紹介 62



医療法人社団 幸隆会
多摩丘陵病院

〒194-0297 東京都町田市下小山田町1491 ☎042-797-1511(代)

院長 今井達郎氏

外来診療受付時間

		平日	土曜
午前	初診	8:30~11:00	8:30~11:00
	再診	8:30~11:30	8:30~11:30
午後	初診	13:00~15:00	—
	再診	13:00~15:30	—

(内科 歯科及び特別診療)



正面入口から臨む多摩丘陵病院病棟



機能回復訓練を行うリハビリテーションルーム

多摩丘陵病院 (救急指定)

- ・ 設立 昭和57年5月
- ・ 救急指定 昭和58年2月
- ・ 院長 今井 達郎氏
- ・ 職員数 400人
- ・ 病床数 316床(一般病棟4病棟196床・回復期リハビリテーション病棟2病棟76床・療養病棟1病棟44床)
- ・ 診療科目 内科・外科・整形外科・脳神経外科・泌尿器科・眼科・リハビリテーション科・婦人科・麻酔科・形成外科・歯科・人間ドック
- ・ 併設 わかば訪問看護ステーション Tel042-797-7844

豊かな緑に囲まれた多摩丘陵の広大な敷地に、患者様の家庭と職場への一日も早い復帰を目指し、地域の医療機関との連携のもと、地域に密着したぬくもりのある医療と看護を提供しています。一日の平均外来者数は約320人です。同病院の医療の大きな三つの柱は、急

性期医療(1ヶ月救急車200~250台受入れ)・予防医療としての人間ドック(年間受診者は1万人を超える)・リハビリテーションです。他に慢性期の療養型医療・訪問診療と訪問看護サービスがあります。

医療サービスの最先端医療技術として、同病院の誇る高いグレードの機器を駆使した検査に、乳癌検診用のマンモグラフィ(フラットパネル)検査、放射線を使わず全身を細かく撮影するMRI (1.5テスラ)検査、短時間で広範囲の検査が可能なCT検査(16列)があり、疾病の早期発見や発病予防に有効です。

また総合リハビリテーション(76床)は、都内有数の規模をもち、同病院の特色の一つでもあります。

療法士34人による立つ・歩くなどの運動機能の再獲得を援助する理学療法(PT)、24人による生活に必要な動作の具体的指導をする作業療法(OT)、7人による個人の症状に合わせた失語症や構音障害へ

の指導を行う言語聴覚療法(ST)など、65人の国家資格者が、回復期のリハビリに従事、社会への復帰をサポートしています。

同病院はこうした予防や早期治療と回復部門に重点を注ぐサービスの提供により、加速する超高齢化社会への貢献を果たしています。

弊社は同病院のほぼ全電気関係を担わせて頂き、直近では非常用発電装置の工事に携わりました。



CT検査(16列)装置



MRI検査(1.5テスラ)装置